

15. 麻酔科（選択）

1. 一般目標（G I O）

将来の専門性にかかわらず、麻酔科分野の必要な基本的診療能力を身につけ、医療者としての人格を涵養することを目的とする。

2. 具体的目標（S B O s）

（1）基本姿勢・態度

- 1) 患者を理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立できる。
- 2) 医療チームの構成員として、医療・福祉・保険の幅広い職種からなるメンバーと協調できる。
- 3) 患者を把握し、問題解決型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。
- 4) 患者および医療従事者と安全な医療を遂行し、安全の方策を身につけ、危機管理に協力できる。
- 5) 医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献できる。

（2）診察法、検査、手技

- 1) 手術患者の基本的な医療面接、診察ができる。
- 2) 麻酔に必要な検査法の実施あるいは指示し、結果を解釈できる。
- 3) 麻酔にともなう基本的手技の適応を決定し、実施ができる。
- 4) 麻酔計画を立案し、指導医とともに基本的な麻酔法を適切に行う。
- 5) 緊急を要する病態を把握し適切な処置ができる。
- 6) 手術適応疾患の病態と合併症について適切な診療ができる。
- 7) 麻酔記録を適切に作成し、主治医に申し送りする。

3. 方略

（1）OJT（on the job training）

・手術の手術前評価と麻酔計画の立案を指導医と共に行う

1) 手術前に手術患者の手術前麻酔評価をする

- ① 医療面接で既往歴、現病歴を把握する。
- ② 身体診察：気道の診察、胸部、腹部の診察、神経運動系の診察を行う。
- ③ 検査：検体検査、心電図、呼吸機能検査を解釈し、X線、CT、MRI、超音波などの画像検査を理解する。

- 2) 全身合併症を専門医師と協議して調整する。
- 3) 手術侵襲と、麻酔侵襲、全身合併症との病態生理を理解する。
- 4) 麻酔計画の立案を麻酔指導医と共に行う。
- 5) 高血圧、糖尿病、喘息、臓器機能低下などの軽度合併症患者、小児、高齢者も発展的に麻酔管理を行う。

・手術時の全身麻酔管理、局所麻酔管理を指導医と共に行なう。

- 1) バイタルサインの評価、生体モニターの解釈ができる。
- 2) 吸入、静脈麻酔薬、麻酔、筋弛緩剤の薬理と使用法を理解する。
- 3) 全身麻酔、脊椎くも膜下麻酔、硬膜外麻酔法を指導医と共に実施する。
- 4) 循環管理、輸液、輸血法を理解し実施する。
- 5) 気道の管理、用手換気、人工呼吸管理ができる。
- 6) 静脈ライン、動脈ラインと必要に応じて中心静脈路を確保する。
- 7) 麻酔器、モニター、ME機器の安全な取り扱いを理解する。
- 8) 麻酔記録を作成し、主治医、看護師に申し送りする。

・手術後の患者管理

- 1) 手術後鎮痛法を理解し実施する。
- 2) 手術後麻酔合併症の把握をし、治療を主治医と行う。
- 3) HCU/ICUでの管理法を指導医、各科専門医と共同で行う。

・麻薬の法的取り扱いを学ぶ。

(2) 勉強会、カンファレンス

1) 麻酔科

① 月曜から金曜日

8 時 50 分から症例検討会でのケースカンファレンス

9 時から麻酔管理業務

17 時頃 病棟手術前回診、麻酔計画作成、手術後管理回診

② 水曜日または木曜日

8 時 30 分から麻酔科抄読会またはレクチャー

2) 手術室看護部門

月 1 回の勉強会への参加

3) 各科症例検討会への参加

月曜午後 心臓血管外科症例検討会

4. 評価

指導医による総括的評価は EPOC2 を用いて行なう。